

国際産学連携 日本—スウェーデン共同研究 「高齢者のための地域共同体の設計やサービスに関する革新的な対応策」 平成 28 年度 年次報告書	
研究課題名（和文）	活力ある高齢社会の実現に向けた 「国際連携型リビングラボ」の創設
研究課題名（英文）	Transnational Living Lab for Active Ageing
日本側研究代表者氏名	秋山 弘子
所属・役職	東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授
研究期間	平成 28 年 1 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

1. 日本側およびスウェーデン側の開発実施体制

日本側チーム〔各機関（産学など）の代表者（研究代表者、副研究代表者）〕

氏名	所属機関・部局・役職	役割
秋山 弘子	東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授	（学）研究代表者
松本 浩司	株式会社三井住友銀行 法人戦略部 法人戦略部長	（産）副研究代表者

スウェーデン側チーム〔各機関（産学など）の代表者（研究代表者、副研究代表者）〕

氏名	所属機関・部局・役職	役割
マチルダ・サム	リナウス大学 デザイン学部 教授	（学）研究代表者
エヴァ・パヴィ ッチ	ヨハンベルクサイエンスパー ク（株）	（産）副研究代表者

2. 国際産学連携 日本—スウェーデン共同研究 本年の目標及び計画概要

高齢社会はイノベーションの宝庫である。本研究は、活力ある高齢社会の実現に向けて、国際連携型リビングラボを自立的かつ実効的に創造、展開していくことを目的とする。すなわち、イノベーションのインフラづくりが目的である。

平成28年度は、鎌倉リビングラボ活動の“原型”を構築することを目的とし、運営体制を確立した後、地域住民への啓発活動（住民説明会等）を行い、企業との具体的な共創活動を継続的に実践する（2～3企業・テーマを試行する）。また、スウェーデン関係者を招いての会合（勉強会）も実施する。これらの経験（学習）を通じて、リビングラボ活動に必要なタスクと対応方法を検証し、より効率的・効果的なリビングラボ活動の体制及び運営ルールづくりをはかる。同時に来年度からの事業計画（ビジネスモデル）を考案する。

3. 国際産学連携 日本—スウェーデン共同研究 本年度の実施概要

3-1 国際連携型リビングラボの創造、展開

鎌倉市今泉台（鎌倉市の北部に位置する昭和40年代に開発された丘陵地のニュータウン。人口約5000名、2000世帯で、高齢化率は40%を超える。）をメインフィールドとする「鎌倉リビングラボ」を2017年1月に本格始動させた。鎌倉リビングラボの活動紹介資料を全世帯に配布、1月22日に住民向けオープニングイベント開催。産官学民からリビングラボの紹介、次世代型モビリティおよび生活支援ロボットのデモンストレーション、参加者登録の呼びかけを行った。1月30日には鎌倉市がプレスリリースを行った。

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kisya/data/2016/20170131.html>



リビングラボ運営モデルの確立のため、企業との共創活動を試行的に実施。

① 医薬品パッケージデザイン調査研究

概要：世界的製薬企業（ベルギーのリビングラボ iMinds/LicaLab と連携）、ユーザビリティテストとフォーカスグループインタビュー（FGI）、参加者は一般および医療関係者（薬剤師・看護師）各15名。

② 高齢女性向けヘアケア製品のモニター調査

概要：外資系企業、製品テストと座談会、参加者は 60 歳以上の女性 17 名（3 グループ）。

③ 新しいワークスタイルの開発に向けたニーズ調査

概要：オフィス家具メーカー、在宅ワークやサテライトオフィスの可能性や働くことについての意識、環境等について FGI を行った。参加者はリタイアシニア男性 7 名、リタイア前男女 6 名、子育て中の女性 6 名の 3 グループについて実施。

④ 専用タブレットを活用した高齢者向けトータル生活サポートサービスのニーズ調査

概要：大手運輸企業および広告代理店。独居（近居含む）の 70-80 代男女 6 名を対象に検討中のサービスについての FGI を実施。

3-2 国内外のリビングラボネットワーク構築

国内外のリビングラボネットワーク構築に向けた活動を行った。

①リビングラボ研究会

リビングラボの事例発表とディスカッション。企業、大学・研究機関、省庁・自治体等の研究会メンバー（登録数約 100 名）が参加。

i) 2017 年 1 月 18 日 特別講義テーマ：

「コミュニティデザインと横浜型リビングラボ」

ii) 2017 年 3 月 2 日 特別講義テーマ：

「高齢者等の製品安全に関するデータ収集・分析事業～生活機能レジリエント社会の構築を目指したオープンデータとリビングラボの活用によるイノベーション創出に向けて～」

② 視察・意見交換

つくば「みんなラボ」、ソウル「イノベーションセンター」、福岡「おたがいさまコミュニティ」、和光・八千代「ギャップシニアコンソーシアム」、静岡「アクティブシニアラボ」、経産省等

3-3 スウェーデン側チームとの連携

地域特性や文化が全く異なる両国において、それぞれのリビングラボ構築のプロセスやシナリオの共有が非常に重要であることから、メールや Skype、Dropbox を活用し、タイムリーかつ視覚的に詳細な進捗状況を共有。

スウェーデン側研究代表者の急病により、2017 年 3 月に予定されていたスウェーデンチームの来日は翌年度に延期となったが、東京で開催された国際シンポジウムに参加のため来日中のスウェーデン側産の代表機関（ヨハンベルクサイエンスパーク（株））CEO と秋山研究代表が今後の進め方について意見交換を行った。来年度はリビングラボの世界大会 Open Living Lab Day（クラクフ、ポーランド、2017.8.29~9.1）において、本研究を核としたテーマについてワークショップを共催予定。